

1 研究主題

よりよい生活を創り出す児童・生徒の育成

2 研究の概要

長岡市三島郡学校教育研究協議会 技術・家庭科研究会は、小学校家庭、中学校技術、中学校家庭の授業公開に取り組む。小学校家庭科部は、長岡市立前川小学校の公開授業・協議会への参加を、研究主題に迫る研修の機会とする。

3 研究の実際

(1) 4月21日(木) 長岡市三島郡 技術・家庭科教育研究会総会 (26名参加)

会 場：長岡市立大島中学校

内 容：年間計画立案

(2) 8月24日(水) 小教研家庭科部会指導案検討会 (9名参加)

会 場：長岡市立前川小学校

指導者：上越教育大学准教授 佐藤ゆかり 様

(3) 11月16日(水) 授業公開 協議会 (18名参加)

会 場：長岡市立前川小学校

指導者：上越教育大学准教授 佐藤ゆかり 様

① 授業者 長岡市立前川小学校
6年担任 平井 恵子 教諭

② 単元名 くふうしよう おいしい食事

③ 本時のねらい

バランス(食品数、栄養素、色どり、旬など)や調理の技術を考えながら話し合いをし、味噌汁の実を5品選ぶ。

④ 本時の展開(4/10)

- ・1日30品目、1食10品目を目安とすると、味噌汁の実を5品目程度にするとよい。
- ・選択した理由を班で話し合いながら、旬の野菜6品、野菜4品から味噌汁の実5品を選ぶ。
- ・実物の野菜を見ながら、調理する視点で味噌汁の実を再検討する。
- ・班で考えた味噌汁の実を発表し、違いや工夫を話し合う。

⑤ 授業の成果と課題(協議会より)

- ・1食分の献立を考えるのではなく、味噌汁に絞って本時で取り上げたことがよかった。子どもたちの話し合いが充実していた。話すことで、好み、食感、組み合わせなど新たな気づきがあり、食品選択の新たな視点を獲得していた。
- ・野菜の写真、イラストなど視覚資料が豊富で分かりやすかった。さらに、野菜選択の視点(旬、食感、色どり、調理技術など)を表にするなどして、視覚化するとよかった。

⑥ 指 導

- ・小学校家庭科の重要性 家庭科が楽しく確かな力を伸ばす場に。食事の役割、調理の基礎を理解することが小学校家庭科の目的。
- ・新学習指導要領の方向性と家庭科教育 何ができるようになるか→生活で用いることができる 何を学ぶか→家庭科の学び どのように学ぶか→仲間とのかかわり

4 成果と課題

家庭科授業で調理の基礎基本をしっかり押さえ、その学びを実生活で生かしていく子どもたちの育成を目指し今後も取り組んでいく。本実践に学びながら、会員個々が実践や研修を積み重ねていくよう努めていきたい。

